



来年に望み託し終了

北浦漁港(男鹿市)

男鹿市の北浦漁港では、24日朝も季節ハタハタ漁が行われ、約11千匹の水揚げがあった。漁の後に漁師が集まり今後について協議。この日で漁を終えることを決めた。水揚げの大きな増加は見込めず、来年以降に資源を残す必要があると判断した。今季の北浦漁港の季節ハタハタ漁は計50千匹程度にとどまり、約1.3トンあった昨季の5%にも届かない不漁に終わった。

この日は漁を終えたら、翌日以降の季節ハタハタ漁について話し合うことにしていた漁師たち。午前9時ごろから、各船の代表が漁協の会議場に集まり、非公開で協議した。

もちろん議題は、このまま終えるのか、それとも、「来るかも」という希望にかけて続けるのかを一。報道陣は会議場の外で結論を待つ。約30分後に扉が開いた。「きょうでやめることにした。北浦は終了」

漁師の西方強さん(68)が報道陣に結論を発表。その理由は「またしげが来て船が出せないこともあるし、ハタハタがたくさん来る見込みは今年はないだろう、となつた。これから来るハタハタを来年以降に残そうと(意見が)まとまった」。口ぶりは淡々としていた。

いつもは気さくに取材に応じる西方さん。記者の直感だが、どこか寂しさを漂わせているように感

じられた。「西方さんの中で無念さはどれくらいか」と聞くと「うーん。心の中6割、7割は無念の気持ちがあるかな」と吐露。「しけの後、最後にもう1回漁に出てもいいかなと思っただけ、足並みをそろえないといけない」と続けた。

「北浦の漁師にとってハタハタ漁は、損得勘定ではないんだ。ずっと北浦で続いていた。俺たちに



例年にならない不漁となった今季の漁を振り返る西方さん



回収した網を乾かすため柵にかけ、漁師24日午前10時ごろ

平沢漁港(にかほ市)

にかほ市の平沢漁港では、23～24日の2日間に24匹、2.3千匹の水揚げがあった。

23日に水揚げされたのは雌2匹、雄3匹の計5匹。先週初競りにかげられた4匹からは増えた

漁師、やるせなさ募る

取れたハタハタを競りに出した秋田さんが出迎えてくれた。2日間



う口にしたもの、どこか暗さを帯びた表情に見えた。

かつてハタハタ漁が盛んだった頃の平沢漁港はどうだったのだろうか。

興味が湧いて聞いてみると、秋田さんは番屋内に掲示された3枚の写真を指さした。40～50年ほど前に地域住民が撮影したものだそう、木造船に乗った漁師が大量のハタハタを運ぶ様子や、

しか分からないことばかりがあるんだ」と西方さん。熱い思いを語り「涙出そうだから、あと取材終わり」とその場を去った。

終了の結論を受け、漁師たちは船を出して網を回収し、乾かしたり量んだりする作業に当たった。その様子を見ていると、もう終わりなんだと寂しさが込み上げてきた。

漁師たちの悔しさは言葉にならないほどのものだろう。ハタハタがかつてのように消費者の元に届く日は今後来るのか。記者として、建設的な資源管理の議論に結びつく記事を書いていかなければと強く思った。(阿部拓郎)

補正予算は1億6781万円、累計38億4969万円。子育て応援手当給付事業費は

事業費578万円なども盛り込んだ。(高橋秀明)

2025年度「元気な市町村」振興局で開かれ、本庄由利地の郷づくり表彰」の表彰式が、由利本庄市の奥由利地域組む4団体をたたえた。

最終水曜日の午後7時半からの2食事を開催して